

続 山口県方言考

山 中 鉄 三

文化庁の3年継続の全国方言テープ収録とその文字化の作業及びレポート作成は2年目を迎えた。山口県は県教委文化課の斡旋で県下を5地区に分ち、梅光女学院大学、山口大学、徳山大学が分担した。5地区は①萩市見島 ②豊北町特牛 ③美祢市伊佐 ④徳山市大道理 ⑤大島郡屋代であるが、私は徳山市より20分の中国山脈山間地域の大道理に前年どおり夏休み期間に方言採録の仕事に出かけた。

53年度の録音作業レポートは54年7月の徳山大学論叢に方言の特色傾向を或る程度系統的に音韻上、文法上に分けて述べ、古語との関係とか特色語について若干触れておいた。今年度は語彙を中心に抄録してその特色傾向を即物的に触れてみようと思う。

ニキヤキジャけーアラオコシなどのタムケたら、牛のグドーや馬のシゴたら、ヘンジョーコンゴー言わんでシーサンセーノター。

(忙しい農繁期だから最初の田鋤きなどの準備やら、牛の奴<外道>や馬の世話やらをあれこれ文句を言わないでしなさいよねー。)

アラグの牛にグをつけてグナレするまでヤリンサイ。グニツイタ牛のケツポッターをシッパターでシムケてクリアーレ。ジャガノー牛がグゴタエしてウワイキをせたら、やめチョケノー、セタラ牛をノーの(ン)とこへキビッチョイでヒタキをフスベラシチョケー。

(仕事を教えていない牛に農具をつけて、牛が農具に馴れるまでやりなさい。農具に馴れた牛の尻を打って田仕事ができるようにしておきなさい。だがね、牛が仕事に疲れて息を苦しく吐くことをしたら、やめておけよ。そうした

ら牛をトシヤクのところへ繋いでおいて、乾燥草を焼いておけよ。)

このような農村語と方言をこきまぜた会話が飛び出てくる。順次、名詞から
みてみよう。

① 名詞(体言)

あくと一 悪戯，わるさ。またその人(悪童)大あくと一，大変な悪者。

あとごし 足腰。

あらおこし・あらずき 最初の鋤作業で田植農作業の第1。第2を(へらもどし)第3を(あらがき)第4を(しろずき)第5を(しろ)と云い，1，2，4は鋤，3，5は鍬とする牛馬の作業順。

あらまし(荒) ①荒々しく乱暴，またその人。②アラカタとも。大体，要約。<原稿はアラマシできた>

何ともアラマシイ人だ。粗雑な人にも云う。

あらた まだ手を加えていない田。

あらじづけ(水づけ) はじめて水を入れてする水田掻き。

いけ 井戸。ツルイ(釣井戸)カワ(井戸がわ)ツボカワとも。

いでぜき いで(いぜ)水田。田に水を引くために塞ぐ作業。

いりこしいっぱい 入れるだけ一杯。十分に一杯にすること。(副詞にも用いる)

おき(沖) 山奥の山村から開けた海の方を指す。富田，徳山などを示す。

おごーさん よい家の奥さん。ゴーサンはお嬢さん。オゴーマーとも。御達(ごたち)女房や女性尊称の中古語の残存。

おしごー(押しごっこ) お互いに押し合うこと。突きごー，取りごーなど。

おほらいさま 神仏のお札，大麻。

おひまち 家でする神事祭。

おはち 神仏のご飯。

おーび(大火) どんどん焚く火。

おんどれ 相手への罵称。オドレ、オヌシャー、オノリヤーなど投げつけていう。

かなこぎ 金属製の爪を並べ稲を扱ぐ機械。いなこぎ、せんば。足踏みのかなこぎに進歩して今は電動となる。

かげん 加減の意が調整の意となり、塩カゲン、湯カゲン、味のカゲン等。更に程度の意<病気のカゲン>など具合程度になる。悪い程度に転じ<いいカゲンにせよ>と悪い事を叱制する意ともなる。<風土のカゲンで病気になる>などは環境や天候などの影響の意にも用いる。

かんや 天候。カンヤイとも。<カンヤが悪く病気になった>

くす 縁起。グスとも。<墓が倒れてグスが悪い>古語(奇すし)の転。

くちまち 段々畑などの上の方の田。下の田をシリマチという。

けた ソロモ(別項)の尖った部分。尖ったものをイガ(刺)と言う。魚のイガ(イギとも)<バラのイガが刺した>

けつぼった一 尻(シリポッターとも)シリベタ参照。

げさく 下品。ゲサクな話。ゲサクな人。戯作から下作へ転意したものか。

げどー 外道。仏教語のスラングで罵称、悪称に用いるが、<牛のゲドー>など人間以外の何にでも使う。

こがんつぼ 肥溜めの壺。

こぐち ①手前の方<田のコグチから草を取る> ②物の端<紙のコグチ>
<山のコグチ><話のコグチ> ③入口<お宅のコグチに置いておきます>
④少量(預金や貨物)

ごーたれ 腹の立つ奴(悪称)ゴータレメ。<ゴータレがすく>(腹が立つ)

ごでんどー 青田ご祈禱。豊作を祈る祭事。デンドーミュキ(田道をゆく氏神の行列)ゴカイドー(御回道)とも。

こな 一毛作田。

これい(これー) この家。<コレーには骨董が多い>類語にアレイ、ソレイ
ドレイ(どの家)<Aさんの内はドレイですか>

こっとい(こと)の促音。<馬鹿なコッティ><俺にはわからんコッタ>

さしくり 仕事の段取り<サシクリを考えないと手間(時間)がかかる>

したじ ①地面, シベタ, シビタ, ドロベタとも ②物の下<松のシタジに昼寝をする>

じきろー ジキロー鉢。栗の木製で物を抄う農具。

しむけ 仕事の処理や準備<田のシムケ><牛のシムケ>(世話の仕事)

しろずき アラオコシ参照。最後の水田掻き。

じら 我儘<ジラをクル><ジラマク>防長語に多用され、親不孝はジラムスコ, ジラクリ, ジラモノ, ジラスケ。ジラクソばかり言う子など言う。近世語にジラ(自囉)は盗人というが、そういう手におえない者に糞をつけてジラクソ奴(め)と言ったものか。ジラをタレル, ジラをクラウ, などと糞の縁語の多いのも面白い。

しりまち 段々畑などの下の田。上の田をクチマチ, 尻(下)・口(上)は川の下流, 上流にもいう。三田尻の田尻などその例。

しりべた 尻。シリポータ(ケツポーター)シリポッタ, シリカブラとも。尻もちをつくことを<シリベタをクータ>と云う。

〜し 衆の意。おとこシ(男, または働き手の男)おなごシ, こどもシ(達)若いシ。えーシ(立派な人)

すかべ 音のない屁。スカシ屁, 屁をスカス, 屁をスル(擦る)など近世語の方言化。

ずいとー ズイタレとも。食意地のきたない者。菓子など見境なく食べる子供を親が叱る言葉として多用。

すっちゃん 大騒ぎすることをスッチャンサワギ。今のドンチャンサワギに当る。

せい(せー) <せーがない>(生きるはずみがない)<せーが落ちた>(失望落胆)<せーが切れる>(息が切れる。セーズクナイ)

せなぼーた 背中。尻ポータ, 尻ベタ。腹ベタ, 胸(むな)ベタなどと類語。

せんどまんご センギコンゴとも。多くの人に声々に求められ欲しがられること。近世語で千呼万呼の意か。

たいがいのもの いいかげんな人、つまらない人<タイガイな奴だ>親が子供
のジラを叱制する時<タイガイにしちよげ><タイガイにせー>など言う。

たこのばち タコナバチ, タコラバチ。竹の皮製のスゲ笠。

だだ ダダをコネル。ダダッ子。ジラを言う子。近世語の地鞆(ジダタラ)の
訛がジダダとなり、ジダダをふんでジラを言うような子供に対して用い
たものか。

たげっさい 田仕事の終了した時の慰安行事。

たご ①稲の束 ②桶, 大きい桶はオーコ(オーコギ, 六尺, 天秤棒とも云う)
でかつぐ ③手桶(テタゴは手でさげる)

たちあい 部落の交際。

たべごと 食事。その準備。

たべどこ 台所。

だや 馬や牛の小屋。

たんちん ホタンチン, ホタンキョーとも。馬鹿, 阿呆者。(近世語残存)

だん ①程度<馬鹿のダンではなく気違いだ> ②段階<いま旅行するダンで
はない> ③その時<寝るダンになってテレビを見るな>

だんだら ①まだら ②荒れた道など<ダンダラ道> ③不整律なもの<ダン
ダラはげ>

~だち その当初の意。<来ダチ>(来た当初)行きダチ, 買いダチ, 見ダチ。

ぢげ 地下(古語)堂上, 殿上などに対する語で一般庶民(地下の人)を指し
たが防長では部落, 村落と同意にいう。

ちびっこ 小さい物。<チビッコな車>から転じて子供の意。チビ, チク, チ
ックリ, チンマイ, チクリンボーなど子供または背の低い人をいう。罵称し
てチンコロ(小児の男根の意)とチビッコに対していう。

副詞(チビット, チートなど)参照。

ちんぼ 男の性器。チンコ, オチンコ, チンコロ, チンチン, オチンチン, チ
ン。

ついんどと ついそんなこと, ちょっとしたこと, 何でもないこと。

づく 物の頂上，さきんちょ。ヅクテン，ヅッテンとも。

つくし ツクヅクポーシ，ツクシンポー，ヒガンポー（ポーズ）とも。①土筆 ②つくし蟬

つのむすび ツノンゴーとも。草履の一種。

てご 手助け，手伝い。

てでま 人手の少ない家。

てね 稲など束。テネソは束ねる紐。

てんば 無作法でつつましくない女。転婆もの。オランダ語 *ontaambaar* の当字か。on と（御）と音通しているため（御）を除いてテンバと略称したもののか，オテンバ。

てんぶら 嘘。ポルトガル語の油揚げ，外形はうまく出来て内容のわからないものから転じて，ごまかし絵空事をいう。

どーげん ドーカンとも。悪戯や乱暴する子供。ドーゲンモノ。＜ドーゲンする＞近世語の＜道化る＞の転。

どーぶら 南瓜。トーナスとポーブラの混成語。トーナスカボチャとも。

とーみ 唐箕。穀物を精選する手まわしの送風器。舶来ものの立派なものを＜唐来もの＞と言い，唐船（からぶね）唐衣，唐紅（からくれない）など言った。以前は板箕（いたみ）という木製ものを風向きに立って手ぶって精選（さびる）していた。機械化の世相が思われる。

とーや 当番に当たった家。

とく トックリとも。徳利型のをいう。

とど トドノツマリ。結局，限度。とどまるところの意。鱧（ぼら）の成長しきったものをトド（止）という。名詞的使用は近世で終り現在は副詞的に用いる。

どなっさん どなたさん。ドナサンとも＜ドナッサマですか＞アナッサンはあなたの意。

とばしり ①あとばね(履物のはねた汚れがズボンなどのうしろについたもの) ②物が落ちた時，車などはねたものに濡れたり汚れたりしたもの。③他の

事件の影響とか巻き込まれた時にいう。

～どまー ①俺ドマー（ども，達）②1年間ドマー休養したい（ぐらいの間）
③今年ドマー大千越だった（などは）

とめくさ 最後の草とり。

どろおとし 作業終了のうちあげ事，宴。

どん ドベ，ケツ（ドベケツとも）末席，最終，最劣等。ドンケツ，ドベクソ，
ビリ（ビリケツ）ドンシリ。

なかずき 田植え前にする水田作業を数回するがアラズキの次にする牛馬での
鋤作業。（アラズキ，シロズキ参照）

なえばせ 苗を束ねるわら。ノーバセとも。

なまはんと ナマハンカ，ナマハンジャク（半尺）とも。中途半端（古語でナ
マは未熟の意，なま女房，なま学生）半端ものをナマハンクレ，半端煮えを
ナマニエという。

～なー （な）は（の）格に同じ。（の）は準体助詞といわれ体言代行する格
助詞，従って＜私ナー＞は（私のものは）の意。＜君ナーどんなか＞（君の
時計はどんな時計か）no と na は母音交替現象による。

ねこぐるま 木製の輪車運搬農具。

ねだ 床下にわたす木。ユカとも。

のー トシャク（積んだ稲束）ワラノー，イネノーとも。ノーグロ（上の関）

のーば 納屋。本屋に対し農作業場。

のどり ノドリがよい。ノミコミ（理解）とも。ノドリが早い遅いという。

のぞき 覗いてみる動く紙芝居。秋祭などの見世物。ノゾキカラクリ，カラク
リとも。覗くをノドクと発音することが多い。

はぎれ 継ぎあわすキレ（布）。ハギキレ。

はぜ 杭（ハゼグイ）を立て横に棹（ハゼザオ）をわたして稲や麦を乾かす干
し場。＜ハゼを組む＞

はちもん 8文は1銭に足りないことから脳の足りない人。ノロ，ウスノロ，
ノロマ，ノロサク，ノロスケ，トロスケ，ノンコ（農子，もと農家の少年奉

公人への罵称)

はちりはん 8里半は9里に近いところから栗に近い美味の芋の味をいう。

はなまがり 鼻曲り、根性曲りの者。ネジケモノ、ニジケモノ、ニジクレモノ

はねこし 麦や米を仲買して他に売ること。

はらごえ 腹這いになること。

ばんぐり 番繰り、順番。

はんちゃくもの 不完全なもの。一着の半分。

はんどー 壺、甕。飯銅で捨て水を入れる壺、盤銅とも。ハンドと読み壺型火

鉢にも云う。古典のハンザフ、ハニザフは柄を半分挿し入れた湯水器をいう

ひがなひてー 一日中。ヒナガイチンチとも。一晚中はヨガナヨブテー。(副

詞ひがな参照)

ひこーきぐわ 飛行機型に両翼をひらき牛馬の力で引き土を割る農具。

ひょーろく 馬鹿、阿呆の意。ヒョータクレ、〜タロー、,、〜ダマ、〜タレ。

ひら 側。<山のヒラ><右ビラ>ネキ、ワキとも。

びり 最末席、後尾(ドン参照)ドン、ケツ、シリ、シンガリ<成績も背も力もビリだ>

ふくじら ①若白髪。②<フクジラを立てる>立腹。<そねーにフクジラを立てるなよ>

ふご 天秤で担ぐ菓製の入れ物。

ふしび 曆の上で祭日に当る日、祭事の日。

ぶす ①不器量<ブスな女>不粋の転か。②毒(附子)狂言で有名。

ふり ①禪やパンツをしないこと。フリチン、フリマラ、フリオメコ、②フリー(風)<死んだフリをする> ③予約なしの客(現在のフリーの客)(以上近世語残存)

ふろくわ ひら鋏。ミツグワは三本の金具爪の鋏。トーグワは金板15センチ位の鋏。

へいぐし 幣串。神前に置くご幣。へーグシ。

へちまのかわ(皮) わけはないこと、平気なこと。<それぐらいへちまノカ

ワだ>へーキノエイザ，へトモナイ，へータラだ。

へらもどし 荒おこしの次の2番鋤。

ほーぐめご 反古入れ籠。

ほーくり 棒片。ポーク，ボクット，ポークット，ボクタ，ポーキイ，ボーギレとも。

ほて ①藁を束ねたお供物 ②藁屋根の棟に押えてある数個の藁束 ③焼魚の串さしの藁束 ④鎌などかける藁束 ⑤漁業用の信号標。ホテは手，腕の罵語（近世浪花方言）上方ではホデとも云う。またホテは腹とも（近世物類称呼）従って押さえ受けとめ太くふくらんだ形のもの，今は藁束を指したのか。

ほぼら ホボロ，フゴとも。藁や竹製の入れ物，運搬具（盥形で両側に紐をつけ担ぐ）ベントーホボラ（今の弁当箱型保温用）灰モチ，モッコとも云う。島根県は魚籠（ビク）にもいう。

またがえし 水田の中を歩きにくくするさま。

まち 田。<上のひとマチ>（クチマチは段々畑の上の一枚の田）下の田をシリマチ。

まめ 元気。古語（まめまめし）は誠実，まじめ，転じて真面目に働くこと，元気で健康な意。<爺さんオマメですね>

みずわれ 水枯れ，干魃。

みつひとつ 3分の1。

② 動 詞

あいむ 歩く。アユム，アリク（古語残存）など。

あがる 出来上る。<ロクーにアガった>（平らかに完成した）<仕事のアガった>

あがく ①牛馬など足早に（足掻く）歩くこと。（あがきの水，蹴散らした水—<徒然草>方言化残存） ②寝相の悪く，モガいた様をアガキと云う。

③子供のやんちゃ、じら。

あける 飽きる。アケタ。

あこーなる ①夜が明ける②赤くなる。古語の<明し>の二つの意義がそのまま残存。

いきあがる のぼせる。かっとなる。

いごかす 動かす。イゴク(動く)イゴカン(動かない)イゴイタ(動いた)

いざらかす 横にずらし動かす。イザラス。

いすぐ 濯ぐ。ゆすぐの転。ススグ。

いとーだ 破損した(痛んだ)イタメルの転。

いためる ①こわす ②虐げる, いじめる ③油火にあてること。イラメルはいじめる意。

いぬる 帰る(古語ナ変動詞の残存)イナン(帰らない)イナス(帰らす)イノー(帰ろう)イネ(帰れ)インサータ(帰られた)

うちらかす うち捨てる。投げやる。散らかす。ウッチャル。(近世語残存)

うみあがる 蒸し物など十分に蒸されること。ウミガアガルとも。次項参照。

うむ ①将棋など負けたことをいう。<王がウンダ>②前項と同じ。

うむえる よく蒸しあがること。蒸し暑いこと<室がウムエル><卵がウムエタ>

えらめる 虐待する。エボメル, イラメル。

おいさい 来なさい。おいでなさいの略。オイデマセ。オイデンサンセイ。オイデンサイ。オイデーナ(いらっしゃい)キーサイ。

おごる ①子供などの騒ぎ。ツバエル, ホタエル ②叱る<親父にオゴラレタ> ③増水<川の水がオゴッタ> ④米に水を含むこと。

おぶわす 子供とか荷を背負わせる。オンブ(負う)オッポ。オップ。オンポー。転じて他人の力や費用に頼ること(近世語残存)

かえる 水を汲み出す<水をカエ出す>

〜かす 使役的接尾語(他動詞化)かけらカス。走らカス。腐らカス。溺らカス。枯らカス。

かずえる 数える。カゾエルの訛。

かつぐ 担ぐ。カタグ，カルウ，オウ。

かった (借りた，買った)を共に云う。

〜かった 否定形に用いる。ザッタ，ダッタとも。〈知らんカッタ，知らんザ
ッタ〉

かまう ①からかう。カモー。いじめる。オチョクルとも ②関わる〈その件
にカモーテはおれぬ〉

かやす くつがえす。カヤラカスとも。カヤレル(自)の他動詞化。

きばる ギバルとも ①得意がる ②力を入れること。子供の時，糞(ウンコ)
をするときギバルと云う ③価をはずむ。客に対して〈百円ギバります〉ま
た，店主に対して〈百円ギバッテ下さい〉と云う ④人に物をおごる〈今日
はビールをギバッテやろう〉近世語気張るの転か。

きびる しばる，結ぶ。①二本の紐をキビル(結ぶ) ②盗人をキビル(縛る)
③牛を木にキビル(つなぐ)その他類推に〈傷のところにキビル〉(包帯す
る)〈竹に木をキビリツケて長くする〉(つけ足す)

きもどる 生きもどって元気が出る。

くたぶらかした 閉口した。クタビレタと同義。〈あの子のジラにはクタブラ
カシタ〉

くちにかぎかける 食べ物が無くなる。

くれまい 下さい。〈それをクレマイ〉

くんな 来るな。下さいの意にも云う。(次項)

くんない ①下さい。②〈〜ない〉は接尾語。……なさいの意。来ない(きな
さい)見ない(見なさい)行かない(行きなさい)クンネーとも。その品を
クンナ(イ)，それを取ってクンナ(イ)など，下さいの意。

〜げる 接尾語化(〜してあげる)の訛。見ちゃゲル。取っちゃゲル。殴っち
ャゲル。

こそぐる くすぐる。くすぐらかす。

こたねつける しめつける。カタメツケル。

さーる なさる (接尾語化, 敬語) サイル。サエル。(後述) ～しゃしゃる。

～しゃんす。～さっしゃる等も同義。(しなさる)の意。

さびる 唐箕(トーミ)で穀物から塵芥を除き精選すること。トーミ(別項)

～さんす ……なさいます。(後述)

しいれる 教えこむ(近世語残存)

しまかーた 失敗したの意。シマーカシタ。

～しゃる なさる (接尾語化, 敬語) <行かっしゃる。行かっしゃった。行かっしゃい>

～すえる ……し続ける。泣きすえる(泣き続ける)

すがる あとさがりする。スザル。スタル。

すさぶる しゃぶる。

すわく 殴る。たたく。スパク, シバクとも。

せる する(サ変の下一段活用例) <努力せて> <それをせて下さい>

たれるな 言うな。<嘘をタレルナ> <馬鹿をタレルナ> など糞, 小便のような不愉快なものを出す時にいう。

～ちゅら チョラとも。①…しているよ(終助詞的に強意) <あいつ, 泣いチュラー> ②…たなら(仮定法) <俺が行っチュラ勝ったがのー> (行っていたなら)

ちち～ 接頭語。チチ投げる, チチ捨てる。同義に, ウチ～, ブチ～など。

ちちくる 乳繰る。男女の密通, チチクリ合う(近世語)。乳首をチチマメ, チマメと云う。

～ちよる (ている)の意。見チョル。死んチョル。漕いチョル。(後述)

～ちやる (てやる) 見チャル。死んチャル。漕いチャル。行っチャル(イ)。

～つかさい (下さい)の本動詞と<見てツカサイ>など補助動詞。ツカンサイ。ツカーサイ。ツカサレイ。ツカッサレイ。ツカワッサレイとも。<仕る>と<下さい>の合成転訛。

～つかんせ 全前。ツカンサイセイ。ツカサンセイ。

つくばる ツクナムとも。ツクバウ。ツクダル。ツクザル。<つくぼーた>ツ

ケンバル。

つち〜 接頭語。ツチ投げる。ツチ殺す。類語にサヂ捨てる。ウチ捨てる。ブチ〜。

できゃーへん 出来はせん。成績の悪い子をデキゃーヘンコ。デケンコなどいう。

とーりよーござんす 生活し易いです。

とぼけやがれ とぼけるな。何をとぼけたことを言うか。罵称語。トボクルナ。トロケを言うな。ドロケ、トロイは阿呆の意。

〜ない なさい。〈来ナイ〉(来なさい) ナセーとも。同義に〈来サン〉(サンセイ) ナセエマセ〈見ナセエマセ〉とも。くんない参照。

にちやられる 叱られる。怒られる。

ねやす ねかす。子供を寝かせる。

のたくる ボソッと怠ける。ノターとする。その人をノタクレ、ノークレという。

はしる 頭痛，歯，きり傷などの痛むこと。

はなをしゅむ 鼻水をかむ，拭うこと。

ひじる ねじる，曲る。〈腕をヒジルぞ〉

ひねになる 無駄になる，売れないこと。

ほーかす 投げる，捨てる。ホークル，ホーカラ(カ)ス，ホ(ッ)ークリダス，ホ(ッ)タラカス，ホ(ッ)ータル，ホカス，ホカラカス，ホコラカス。仕事を放置する意にもいう。

みてる 無くなる〈金も命も時間もミテタ〉満つ(一杯になる)から残余の無くなる意に転。〈尽きる〉の忌詞を避けて逆の〈満てる〉を使用したものか。梨を(ナシの逆語の)アリと云う例。

めぬけてとーる 教えてやらなくて本人でわかること。

もよーする 兆候を示す〈小便をモヨースル〉

やれん 出来ない，堪えられない。ヤレントモイ，ヤレントモイサン，ヤレンヤッタイ，ヤレンニーノ，ヤレンチャーノ，ヤレンデ。

～よった ①過去の事柄動作を云く昔よく働きヨッタ>～オッタとも。②現在進行形にもく今、車で来ヨル>～オルとも。

③ 形容詞，副詞，形容動詞その他

あげーな あんな (コソアド系共通) アネーナ，アネゲーナ，アガイナ，アガナ，アガンナ，アギヤーナ，アントナ，アネットーナ。

あっこ あのところ。アントコロ (コソアド系共通) <アッコもソッコもドッコも留守だ>

あんに あそこに，あしこに。<アンニ見える>

いぎましい 魚など小骨 (イギ) の多いさま。

いぐたらしい 残酷な。

いじくさい 意地悪なこと。インジキタナイ。

いじろしい せわしい。

いたしい ①むずかしい。<イタシかった> ②苦しい，気の毒。

いっこ 一緒<イッコに学校にゆく>。同じ事<結局はイッコね>。同類<君の考えとイッコだ>同様，同時にもいう。

いっしき そのことだけ。一式，一色か。<草とりにイッシキで終った>

いろい 変ったこと<イロイなことを言うな>

うん 返事のハイに当る。そうです (イエス・ノーのイエス) ウンニャは (ノー) に当りインニャともいう。

えーたー たくさん。エート，エッター，エット，ゴッパシ，ジョーニ，オーカマシイ，ドヒョーシ，ゴッポー，ゴツー，ゴーギニ，チューニなど甚だしい意で多用する。

え〜 不可能の副詞 (古語残存) <えー見ん> (見ることが出来ない) 下に否定語を伴う (え見ず) の訛。<エー見ない>

えらい ①きつい，しんどい。エラー。<エローなった> ②大層<エロー雪が降る><エライ雪じゃのんたー>。<エラソーな顔>は (きつそうな顔，

偉そうな顔つきにもいう) エラー顔とも云う。

からきし 全く、まるで。下に否定語を伴う。カラキッシ、カラキリ。<~書けない>カラクツとも。(近世語残存)

きなくさい 焦げくさい(近世語残存)

きやいがわるい ①気持の悪い不吉な、いやらしい感。キヤイクソが悪い。

②失敗して気分が悪い感。<ケタイクソが悪い>とも。

くどーまんどー 執拗なこと。クドイ、ネシコイ、ヤネコイなど類語。

けがなこと ケガの功名と同義。<ケガな拍子>など。ケガノバチ(偶然その利益)とも。

けんそーかえて すごみ、けんまくを見せて。

けんとー 思ったより以上、むしろ、割合に、意外に<ケントおいしかった>

こいら これら、こんげどー、こいつら、こやと(物にも人にも云う)

こがな こんな。コゲーナ、コゲンナ、コネーナ<コガナものを買った>

ごつくら とても、全く、ひどく<ゴックラやれんノンター>

ことゆー コトイイ。忙しい。

ごねん〜 ①頂戴物の礼辞<ゴネンのいりましたことで…> ②別れの辞<ゴネンになさいませ><ゴネンをおいれはんせー>(ご大事になさいませ)

さいさい 再々、再三(さいさん)。同義のマイマイ(毎々)は吉田松陰の用語にも多い。度々(たびたび)の意。

じきー まもなく。ジキニ。<春はジキー来る>ジキニ。(ジカニ)は直接にの意。

しょーがよい 根気が強い。

じよなじよな ぐずぐずするさま。

せいして 根気よく。

そげーな そんな(コソアド系共通)ソゲン(ナ)、ソナイ、ソガイ、ソレゲターナ、ソレゲーナ、ソネット、ソネトーナ、ソネーナ。

たいがいの(な) タイテイノ(ナ)とも。いい加減な、あきれた<タイガイな男><タイガイにせよ>(いい加減にしておけ)子供などを戒める詞に云う。

たいしみ たのしみ。

だんない 大事でないこと。

ちと 少し。チート、チット、チ(ッ)ーター(少しは)チビット、チョビット、チートベクソ。関連語にチッポイ(小さい物または人)、チビ、チンマイ。チックリ(丈の低い人)チクとも。チッポケ、チッポイ(小さい、幼い)チットラ(少しぐらい)チビル(磨滅する)チビ下駄、チビ筆など。チョンビリ、チョッピリ(少し、少量)チンコ(子供の男根)チンマリ(小さくまとまるさま)

つい 同じ。一対(いつつい)の対。〈ツイのこと〉(同じこと)〈君と丈はツイだ〉

〜どな 〜ですよ。〈死んだドナ〉

どない どんな〈ドナイな人か〉〈ドナイになったか〉ドガイ、ドナン、ドネン、ドネー、ドゲー、ドゲイナ。

〜ともい トモエとも。終助詞的用法の強意〈知らんトモイ〉トモエナイノ一、トモイサンサーノンター、トモイナサイマセ。(後述)

〜なんな〜な〜 のなんのな〜〈忙しいナンナーナー〉(忙しいどころではない)

なんぼかし ①幾らも……ない。〈ナンボカシ集まらない〉 ②幾ら。〈ナンボカシ儲けたか〉

ぬるい 温度の低いこと、ナマヌルイ。転じてノロイ、ヌルイ男などまぬけたこと。トロイ、ノロ助、ヌル助、トロ助など。

の〜くれ ノークリ、ノタクレ、トロケ。怠け者、とぼけ者。ノータレ、ノラクラ。

〜のんた ねえあなたの約、終助詞に類出。間投助詞にも〈私はノンター旅しますケーノンター留守たのみますイノンター〉(後述)

はえん ハエナイとも。サエンと同義。〈どうも仕事がハエン〉うまくいかない。パツとしない状態にいう。

ばすがわるい バツが悪い。きまりが悪い。てれくさい。

～はったい ハータとも。……なさった意。＜死にハッタイノー、元気でハータがノンター＞ハータイとも。

ばばちい 汚い（幼言語）屎シイ、ババッチイ（近世語残存）

ひがな 一日中。ヒガナヒテー、ヒンガナ、ヒガナイテンチとも。＜ヒガナ泣いちよる＞

ひとだかい すぐ人が集まるような＜ヒトダカイ所は駅前だ＞

ひんずー たくさん。＜ヒンズー獲れた＞員数の転訛か。

ふよー 不精。仕事に対した寒さにすくんだ状態またその人（スクレとも）フヨタレ。＜何でもフヨーな男だ＞

ふれげな ふしぎな意。

へたらながい 長話し。＜ヘータラナガイ文章＞

ほ一かのー そうかね。本当かね。

ほ一まか 本当かね。＜その話ホーマカノー＞ホンマとも。

もそっと も少し。マソットとも。

まるっと ①全部。＜その品マルット下さい＞マルカシ、マルゴト、マロカシ
②まるで＜マロカシ失敗だ＞マロッカシとも。

めんどーしない 不恰好な。みっともない。

ゆーに ①閑暇＜今日はユーナ日で、ユーニ過した＞ ②ゆったり＜ユーニ歩く＞ ③平気で、らくに。＜その仕事ユーニできる＞

よーと 良く、しっかり。＜ヨート勉強せよ＞

ろくっとな ①ロク（平常、平面）ロクイ。＜ロクナ土地＞（平面），②＜ロクロク出来ない＞（十分満足にできない）ロクシット、ロクシッポとも。
＜ロクットなことがない＞（良いことがない），＜ロクットな奴でない＞（満足な男でない）＜ロクットな奴＞と同義にいう。

④ 接続語と並列語

そして ソーテ。ソエテ。セーテ。ヘーテ。ホシテ。ホイテ。ホーシテ。

そしてから ソーテカラ。セーテカラ。ヘーテカラ。ホーテカラ。ホテカラ。
 そしたところ ソタトコロ。セタトコロ。ヘタトコロ。ホタトコロ。
 そしたら ソーシタラ。ソタラ。ソータラ。セタラ。セータラ。ヘタラ。ホタ
 ラ。ホータラ。ホイタラ。
 そうすると ソーセルト。ソースト。ソスト。ホスト。
 それから ソイカラ。ソーカラ。ソエカラ。セーカラ。ヘカラ。ヘーカラ。ホ
 イカラ。ホーカラ。ホエカラ。
 それだから ソジャカラ。ソレジャカラ。ソジャケー。ソレジャケー。ソヤケ
 ー。ソーヤカラ。ソヤカラ。ソレヤケー。セージャケー。セヤカラ。ヘー
 ジャカラ。ヘージャケー。ヘヤカラ。ヘヤケー。ホレジャケー。ホヤカラ。ホ
 ヤケ。
 それで セーデ。ヘーデ。ホレデ。ホーデ。
 ～なり～なり <山ナリ海ナリに行け>
 ～たり～たり (動詞の並列に)
 ～たら～たり <犬タラ猫タラ何タラ……>
 ～じゃ～じゃ <犬ジャ猫ジャを飼つて……>
 ～てら～てら (動詞、名詞の並列に)
 <犬テラ猫テラ……見るテラ見んテラ……>

⑤ 特殊な終辞的用法

各品詞にそれぞれ長音、促音、撥音、拗音など多様な音変化を伴って多用される。ここでは特殊なニュアンスのものを抄録する。多少は前号(本学論叢・山口県方言考)と重複する面もあるが前号に詳説したものは省略することにする。

●～のんたー・～ともい(ともえ)さん

最も多い終助詞的用語で、ノンター、トモイ(トモイサン)、またトモイノンターなどと防長語の特殊といえる。念押し、余情強意を示す。<難儀なこと

が多いトモエサン><よく雨が降るノンター>など、トモイ（トモエ）は主体的なことに関わることに用いることが多く、ノンターは（ねえ、あなた）の約まったものだけに主体だけでなく相手に関わりを持たせ同感を求めたり何か反応を待つ心がある。トモエサンノンターと併用して自己の述懐と共に相手への呼びかけや関心を求めるようなことも多い。その場合、相手の人に更に敬意や丁寧心を必要とするときにはナサイマセを併用して<とてもえらかったトモイナサイマセ>などと表現する。ノンターの終助詞的終辞はさらに終りにつけてトモイナサイマセノンターと結ぶ。

●～さんす

（ナサイ+マス）の約まった敬意語で<どこへ行きサンスか>また<行きサンスルか>とか、<行きサンシた><早く行きサンセー>などと用いる。

●～さいる

（なさる）の意でサンスと共に多用する。<行きサイタ>また（サータ）とか<早く行きサイ>（サン）などと用いる。サータは、音訛してヤータ、ハイタ、ハータ（ハッタ）とも言い、サータより敬意丁寧の意が弱く親しい仲間に対して言う。

●～ごんす・がんす・ごわす・どんす

全県的に農漁村部に残存する。

●～くりゃーれ

（下サイ）の意。<見てクリャーレ>

●～ちよる（テイルの約）

<知っチョル、わかっチョル>など頻出。その敬意度は知っチョル→知ッチョッテ→知ッチョリサイル→知ッチョッテデアリマスなど変化する。

●～ちゃ（チャー）

①（ては）の約で<見チャいけん> ②終助詞<わしは知らんチャ>強め念押しに用いる。

●～ちゅ（ちゅー）

（という）の約<彼も知らんチュー>

●～にゃ（にゃー）

①（には）の約<私ニャーわからん> ②（ねば）の約で<わからんニャー聞きなさい>

●～だった（ざった）～かった（前出）

否定に多く用いる<知らダッタ><知りませダッタ><知らんカッタ>

●終助詞は非常に多く先号に詳説した通りだが、ノー、ナ、イ、デ、ガ、ド、ニ、ヤ、ネ、ヨ、テ、ン、ソ、ホ、チャー、トモイなどがあり、それらを適当に組み合わせて用いたりする。ほとんど（ネ、ヨ、ヤ）などと同じである。珍しい用例を少し示すと<うちは行かんホ、だから何も見てはおらんテ、それ以上なにもいわんゲー、しかし彼はどうだか知らんデ><僕見ちゃったン、あの人はノー、とぼけちよるソ、とぼけてもわかるっチャー>といった具合である。

挨拶語の方言について一言。<あんたんでありますか><おうちでありますか><ごめんなさりませ>（ご在宅ですか）と訪問挨拶に言う。また<あんたんでがんですか><おってかなー><おらすんですか><おゆるしんされませ><おらっしゃるかー>などとも。また挨拶語の<お早うございます>というところを<お早うございました>と過去辞を用いることの多いことも方言的である。

その他、チョルの多用、ハー（副詞又は間投詞）の多発、古語の多例など特色的方言は本誌前号に触れておいたので参照されたい。

以上、用語例を抄録したが私の父の著作「山口県方言辞典」（山中六彦著）と成る可く重複しない語を選んだことを断っておく、参考と同辞典を参照してほしい。

なお、方言採録テープの器具操作の援助に吉岡睦子（上智大学）中田敦夫、土井浩（徳山大学）の諸君の力を借り、会場その他のご協力を得た徳山市教委社会課、大道理公民館の各位、及び大道理の人物ご斡旋を願った原荒士氏に深甚の感謝を申し上げる。